



県政界・経済界の先覚者。松山城下(現松山市)出身。維新後、陶器製造業を始め、以来、松山米商会や第五十二国立銀行(現伊予銀行)などを創立する。特に伊予鉄道会社を創立し、三津―松山間に、わが国最初の軽便鉄道を開通させるなど、愛媛県の経済発展の土台を作り、県経済界の先覚者として活躍した。また、藩政期には松山藩士として、維新後には県、郡などの地方官吏や県会議員などを務め、地方行政にも携わった。その進取的な生き方は、同時代人の多くから「翁は、政治上、社会上の地位に安着するを好まず、常に興味をもって新事業の開発に志した…」と評され、今でも実業家の手本とされている。

## 略歴

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 天保13(1842)年8月28日  | 松山藩士の家に生まれる。                                      |
| 嘉永6(1853)年9月      | 松山藩士小林家の養子となる。                                    |
| 万延元(1860)年1月28日   | 小姓として藩へ仕え始める。                                     |
| 明治6(1873)年9月      | 一番町で陶器製造業を始める。                                    |
| 明治9(1876)年7月      | 旧藩主久松家の囑託で、士族授産のため、製紙・製靴・小倉織を扱う工業会社牛行舎を創立し、社長となる。 |
| 明治10(1877)年2月     | 松山米商会を創立。   |
| 明治11(1878)年9月14日  | 第五十二国立銀行(現伊予銀行)を創立、頭取。                            |
| 明治15(1882)年5月3日   | 松山商法会議所創立、頭取。                                     |
| 明治16(1883)年2月     | 海南新聞社(現愛媛新聞社)の社長となる。                              |
| 明治19(1886)年9月     | 高浜港築港を発起。   |
| 明治20(1887)年9月14日  | 伊予鉄道会社を創立、社長。                                     |
| 明治21(1888)年10月28日 | 伊予鉄道会社、三津―松山間で営業開始。                               |
| 明治25(1892)年2月     | 第2回衆議院議員選挙に当選。                                    |
| 9月                | 高浜棧橋会社を創立、頭取。                                     |
| 明治34(1901)年12月    | 伊予水力電気株式会社を創立、専務取締役。                              |
| 明治36(1903)年       | 伊予製紙株式合資会社を創立、代表社員。                               |
| 明治40(1907)年       | 伊予電力織布株式会社を創立、社長。                                 |
| 大正7(1918)年9月24日   | 77歳で永眠。墓所は松山市道後常信寺。                               |

- 小林信一『小林信近手記』 小林信一 1966年
- 小林信一『小林信近創設五事業苦心記』 小林信一 1966年
- 北川淳一郎『小林信近』 北川淳一郎 1968年
- 伊豫銀行総合企画部『伊豫銀行史』 伊豫銀行 1971年
- 毎日写真ニュースサービス社『坊っちゃん列車と伊予鉄道の歩み』 伊予鉄道株式会社 1977年
- 伊予鉄道株式会社『伊予鉄道百年史』 伊予鉄道株式会社 1987年
- 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年

(肖像画:伊予鉄道株式会社蔵)

愛媛県生涯学習センター:TEL 089-963-2111(内線212)  
掲載情報の無断転載を禁じます。